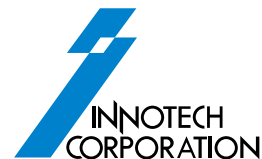


INNOTECH CORPORATION

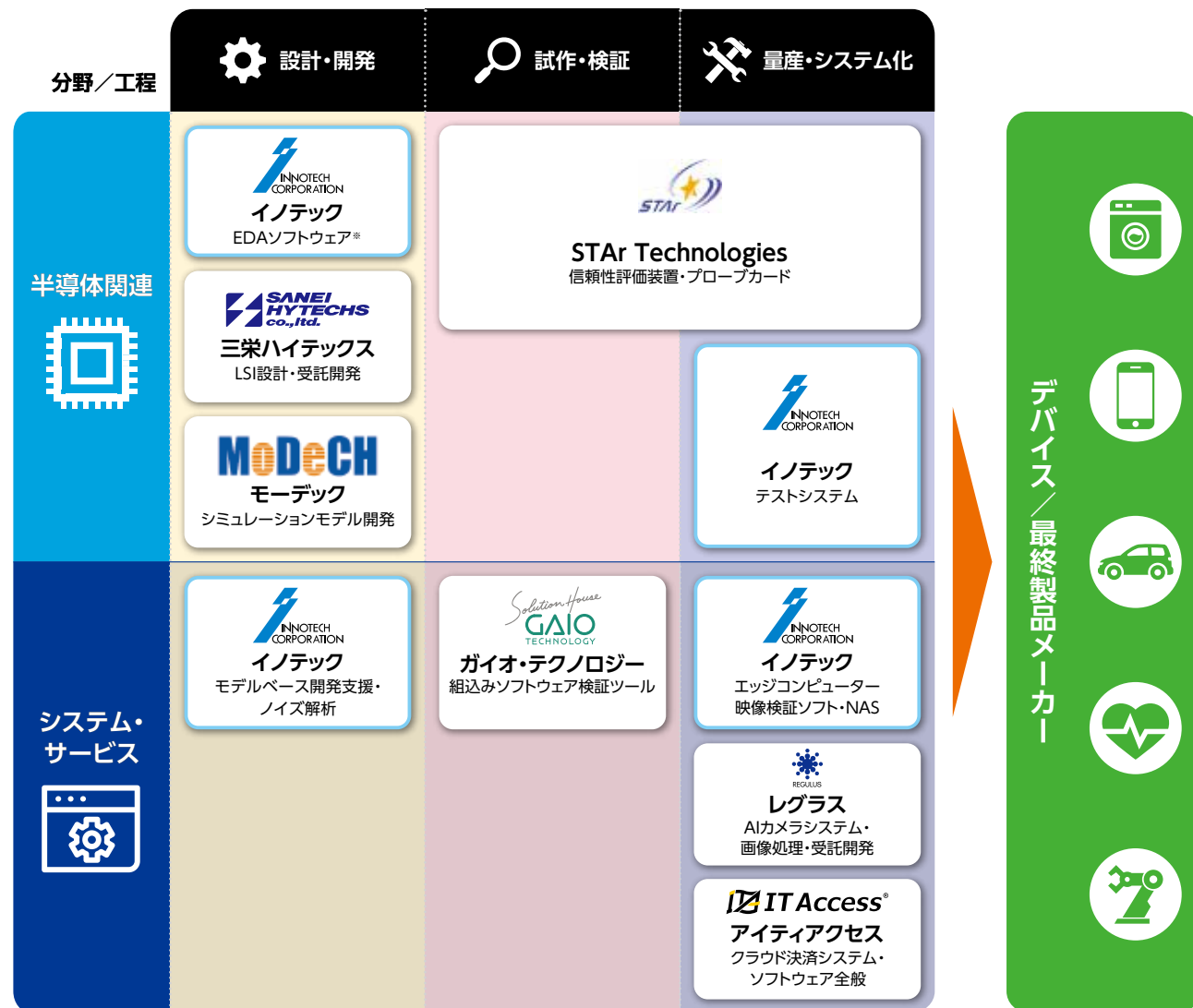
BUSINESS REPORT

2021年度 中間報告書 2021.4.1-2021.9.30



証券コード:9880

ハードウェア、ソフトウェア、コンサルティングサービスを提供する
総合プロバイダーとして、お客様の技術課題の解決に幅広く貢献します。



※ 半導体設計用ソフトウェア

経済活動の回復に伴って
上期は大幅な増収増益となりました

当第2四半期の経営環境や業績について

2021年度(2022年3月期)第2四半期累計期間(以下第2四半期)における日本経済は、欧米や中国などの経済活動回復に伴い、輸出や設備投資に改善の動きが見られたほか、新型コロナウイルスワクチンの接種進展や、新規感染者数の減少に伴う行動制限の緩和などにより景気の持ち直しが期待されたものの、国内外における感染再拡大が懸念され、東南アジアなどでの一部工場閉鎖による部材供給難や、半導体の世界的な需給ひっ迫の影響など、依然として予断を許さない状況が続きました。

こうしたなか、イノテックグループにおける当第2四半期の業績は、メモリー向けテストの需要が旺盛だったことに加え、半導体設計関連向けのビジネスが概ね堅調に推移した結果、売上高188億63百万円(前年同期比26.3%増)、営業利益16億81百万円(同268.2%増)、経常利益19億52百万円(同226.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益14億6百万円(同383.6%増)となりました。

▶ イノテックが目指すもの

- ▶ エレクトロニクス・ビジネスを通じて、人々の生活を豊かで快適なものにし、「未来社会に貢献」する
- ▶ 創造力を駆使、携わるエレクトロニクス業界の技術の進歩に寄与し、「不可欠な存在」になる
- ▶ 我々の真の事業は「問題を解決すること」であり、顧客に満足いただく労苦を惜しまない
- ▶ 先端技術に挑戦し続ける「パイオニア」になる
- ▶ 創造力を発揮できる会社の仕組みづくりに心血を注ぎ、「誇りの持てる」会社を実現する



代表取締役社長
大塚 信行

通期の業績見込みについて

下期については、部材不足や価格の高騰、半導体不足に伴う自動車の減産などの影響が懸念されるものの、上期の大幅な増収増益により、期初計画を上回る見通しであることから、通期の業績予想を上方修正しました。売上高364億円(前期比11.9%増)、営業利益24億円(同22.8%増)、経常利益26億50百万円(同7.7%増)、親会社株主に帰属する当期純利益18億円(同17.3%増)を計画しています。

株主の皆様には引き続きご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

▶ 配当金のご案内

中間配当につきましては、今後の事業展開などを総合的に勘案し、2021年11月9日開催の取締役会で決議いたしました。

- 1.配当金**.....1株につき**30円**
2.効力発生日(支払開始日).....**2021年12月9日**

なぜなに？ イノテックグループの事業戦略を解説

半導体設計における
専門技術を高め、グローバルに
展開して顧客ニーズに応える

半導体設計のプロフェッショナル集団として創業した三栄ハイテックス。
活況を呈する半導体市場において、どのような成長を描くのか
代表取締役社長の間淵よりご紹介します。



三栄ハイテックス株式会社
代表取締役社長
間淵 義宏

Q 三栄ハイテックスの強みとは？

A 主力事業の「半導体設計」において、アナログ／論理回路ともに
全工程を社内で完結できる体制を特長としています。

三栄ハイテックスは、「半導体設計」「車載ソフトウェア開発」
「人工知能(AI)開発」「ICTソリューション」の4事業を展開し、
このうち収益の6割を「半導体設計」が担っています。

半導体には、大きく分けて“アナログ回路”と“論理回路”が
あり、現代の電子機器の多くは両者の組み合わせで成り立っ
ています。当社は、創業当初からオーディオ向けのアナログ
回路の設計を行い、これまで一貫してアナログ回路設計を中
心に成長を続けてきました。こうした歩みのなかで蓄積して
きた豊富な技術やノウハウは、当社の大きな強みの1つです。
また開発においては、アナログ／論理回路ともに回路設計か
らレイアウト、検証に至るまでの全工程を社内で完結できる
体制を特長としています。

そして現在、当社は半導体市場を牽引しているスマートフォ
ンや自動車向けの半導体設計に注力しています。例えば、ス
マートフォン向けではCIS※1、自動車向けではデンソー社の車
載機器に搭載するセンサーやECU※2用の半導体のアナログ
回路設計を受託しています。そのなかで、顧客の要求するス
ペックを迅速に実現すべく、長年培ってきた技術やノウハウを
活かした提案を行い、信頼関係を強化してきました。今後も、
拡大するアナログ技術へのニーズに対応し、顧客の期待に応
えていきたいと考えています。

※1 CMOSイメージセンサーの略。CMOSを用いた固体撮像素子。イメージセンサー
は、レンズから入った光を電気信号に変換する半導体(撮像素子)。

※2 エレクトロニックコントロールユニットの略。エンジンの運転制御を電氣的な補助装置
を用いて行う際に、それらを総合的に制御するマイクロコントローラ。

Q 半導体の市場動向と三栄ハイテックスの戦略は？

A 国内では安定した収益を確保し、海外では中国マーケットの
開拓に舵を切り、さらなる成長を目指します。

半導体市場は2021年に過去最高の規模に達し、2022
年以降も高い成長率を維持すると予測されています。そし
て、今後さらにプロセスの微細化※3が進むことで、より集積
度やパフォーマンスが向上し、新たな技術や機能が実現さ
れていくと考えられます。

とりわけ中国は国策として半導体製造に注力しており、中
国でのビジネスを伸長させることが成長の鍵になると認識
しています。そこで当社は、国内では引き続き主要顧客と安

定したビジネスを展開する一方、中国をメインとする海外で
はビジネス体制の構築や強化を更に進めていく方針です。

国内においては、大手CISメーカーの世界的シェアを
持つ企業との関係強化に注力し、安定的な収益確保を
実現していきます。また、センサー、画像処理、機能安全
などの領域で当社が培ってきた技術を活用して、産業用
ロボットの研究開発も進めていきます。

※3 情報を処理する回路をチップ上に敷き詰めるにあたり、その間隔を細くすること。

海外の戦略ロードマップ



海外では、中国事業のローカルビジネス化を進めており、従来のオフショア開発から中国国内のマーケットを開拓する方向へと舵を切りました。中国では半導体内製化政策の推進により、半導体設計の需要が急速に高まっていますが、その影響で人材の確保も難しくなっています。それ以外にも、商習慣やビジネスのスピード感の違いなど、多くのハードルがありますが、今後も着実に展開を進めていく計画です。



三栄高科設計(成都)有限公司 銀川分公司

Q 今後の展望は？

A AI開発に注力するとともに、グループ連携を強化してシナジーを創出していきます。

注力分野の1つに掲げている「AI開発」においては、画像・音声認識などのアルゴリズムをFPGAなどの半導体の実装する技術に当社の強みがありますので、そうした領域の開拓に注力していく方針です。同時に、ベトナムを拠点にAI向けの教師データを作成するアノテーションサービスを展開するなど、今後も事業環境の変化を見据えながらニーズに応えていきたいと考えています。

そして、イノテックグループの連携という点では、半導体設計のためのEDAソフトウェアや台湾のQNAP社製NAS^{※4}を代理店であるイノテックから購入しているほか、グループ企業のモーデックやガイオ・テクノロジーとの取

引や協業も進んでいます。今後もグループシナジーを創出して、当社およびイノテックグループの成長を加速させていきたいと考えています。

※4 ネットワークアタッチドストレージの略。コンピュータネットワークに直接接続して使用するファイルサーバー。



アノテーションサービス

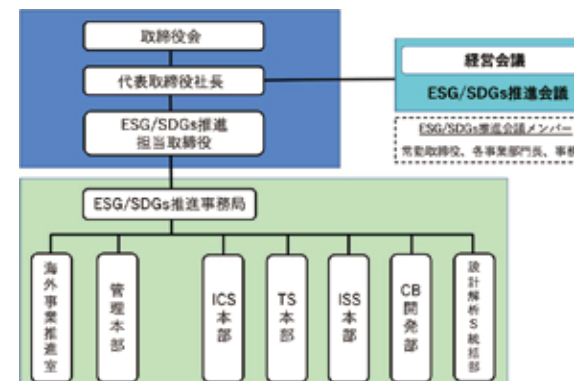
イノテックグループはESG経営を推進し、サステナブルな企業を目指します。

イノテックグループは、中長期的な成長のため「環境(E)」「社会(S)」「ガバナンス(G)」の要素を組み入れたESG経営を推進し、事業リスクを最小化するとともに、事業機会の拡大と持続的な企業価値の向上を図ります。

ESG/SDGsの観点から グループの経営課題を解決していきます。

イノテックはESG/SDGs活動を管掌する担当取締役を選任し、常勤取締役と各事業部門長をメンバーとするESG/SDGs推進会議を定期的に開催しています。この会議では、コーポレート・ガバナンス体制の構築、当社が有する先端技術を活かした環境課題の解決、従業員教育の充実、ダイバーシティの推進、サプライチェーンマネジメント、地域社会への貢献など、重要度の高いESG課題に対して議論を進めていきます。

ESG/SDGs推進体制



ESGサイトを通じて 積極的に情報公開していきます。

当社は2019年2月7日発表の中期経営計画において、ESG分野の活動を充実させていくことを目標に掲げています。ステークホルダーの皆さまに当社の取り組みをより一層理解いただくため、2021年8月にESG活動の情報をコーポレートサイトに公開しました。

今後は、このESGサイトを通じて、積極的に当社の活動を発信していきます。

イノテック ESGサイト

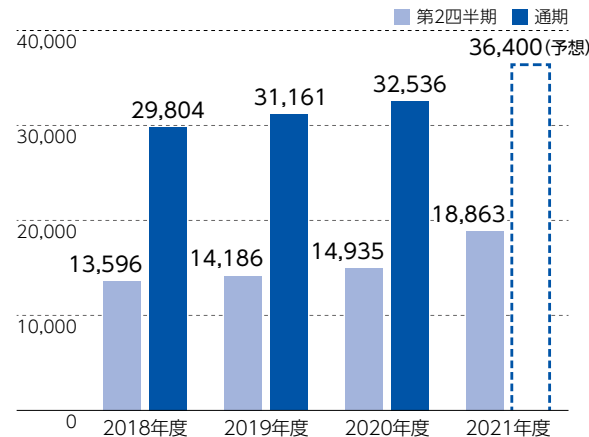


<https://www.innotech.co.jp/esg/>

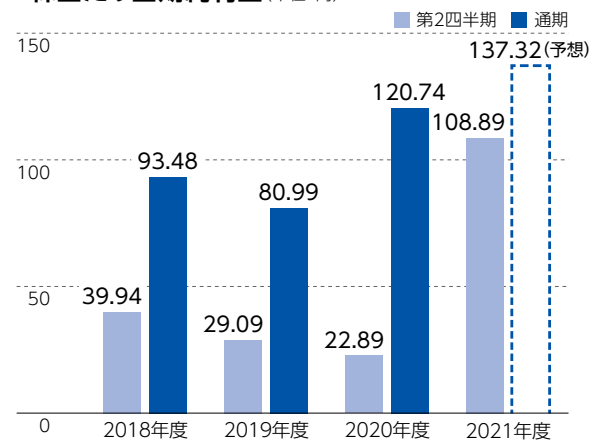


売上高 **188** 億円 (前年同期比26.3%増)

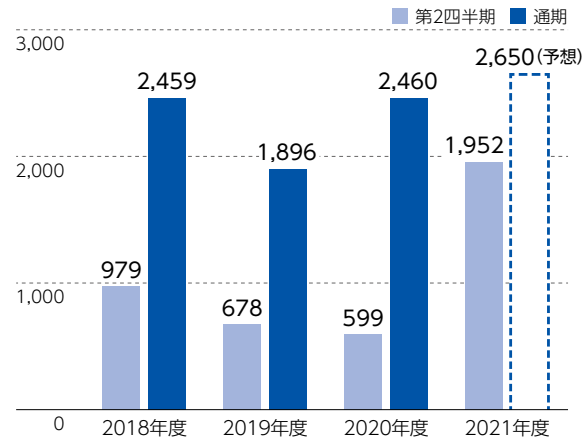
売上高 (単位: 百万円)



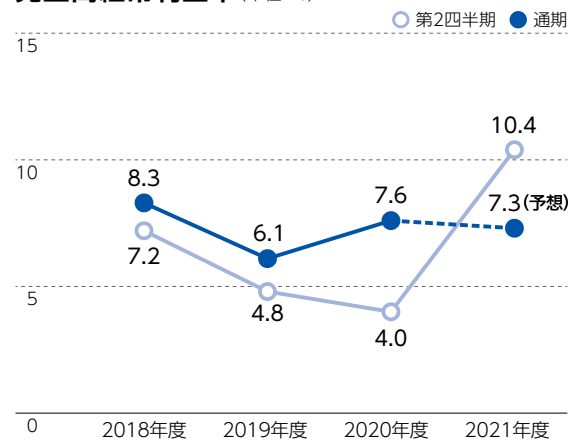
1株当たり当期純利益 (単位: 円)

経常利益 **19** 億円 (前年同期比226.0%増)

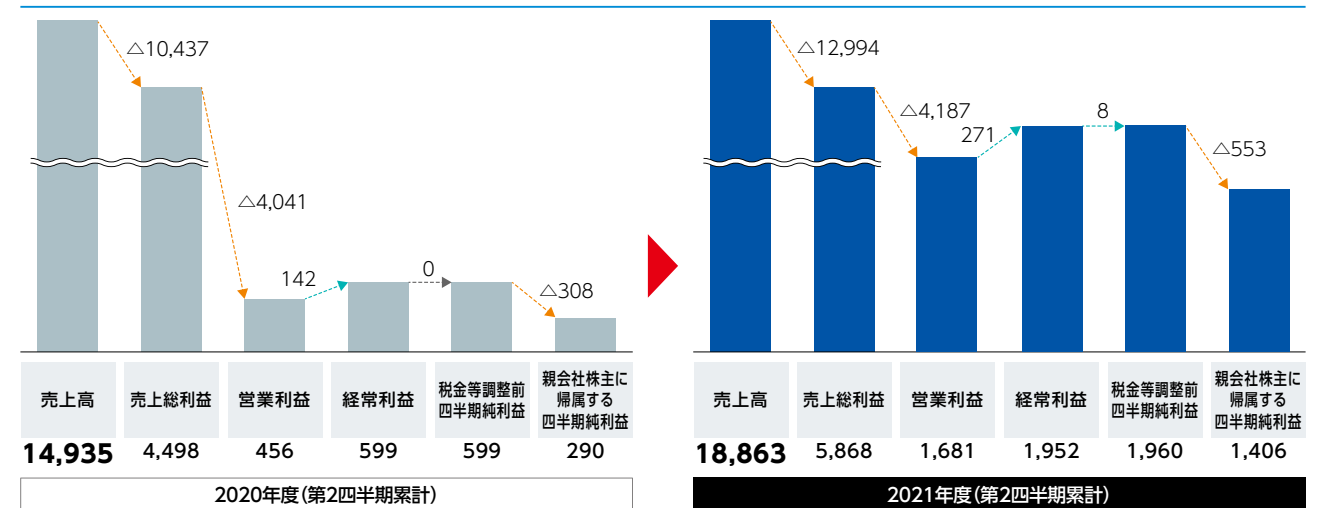
経常利益 (単位: 百万円)



売上高経常利益率 (単位: %)



◆ 四半期連結損益計算書 (単位: 百万円)



(単位: 百万円)

科目	前第2四半期累計 2020年4月1日～ 2020年9月30日	当第2四半期累計 2021年4月1日～ 2021年9月30日
売上高	14,935	18,863
売上原価	10,437	12,994
売上総利益	4,498	5,868
販売費及び一般管理費	4,041	4,187
営業利益	456	1,681
営業外収益	379	489
営業外費用	237	218
経常利益	599	1,952
特別利益	—	65
特別損失	—	57
税金等調整前四半期純利益	599	1,960
四半期純利益	286	1,439
非支配株主に帰属する 四半期純利益又は四半期純損失	△4	32
親会社株主に帰属する 四半期純利益	290	1,406

① 四半期連結損益計算書のポイント

当第2四半期連結累計期間の業績は、メモリー向けテストの需要が旺盛だったことや半導体設計関連向けのビジネスが概ね堅調に推移した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は14億6百万円となりました。主な事業の概況は、次のとおりです。

- テスター事業は、国内需要が堅調に推移したことに加え、中国向け製品の販売が寄与したことにより大幅増収。
- 三栄ハイテックスは、海外事業が前年同期実績に及ばなかったものの、国内事業が主力顧客の需要回復により増収増益。
- 組込みシステム事業は、防衛向けやセキュリティ関連の需要増により増収。
- ガイオ・テクノロジーは、主要顧客である自動車関連の需要が回復には至っていないものの、前年同期における製品開発への集中投資負担の減少などにより、収益性が改善され増益。

連結財務諸表(要旨)

◆ 連結貸借対照表

(2021年9月30日現在)



①総資産のポイント

当第2四半期末の総資産は、408億57百万円となり、前期末に比べ31億77百万円増加いたしました。これは主に、受取手形、売掛金及び契約資産や現金及び預金、原材料が増加したことなどによるものです。

①負債のポイント

当第2四半期末の負債は、183億6百万円となり、前期末に比べ17億53百万円増加いたしました。これは主に、前受金が増加したことなどによるものです。

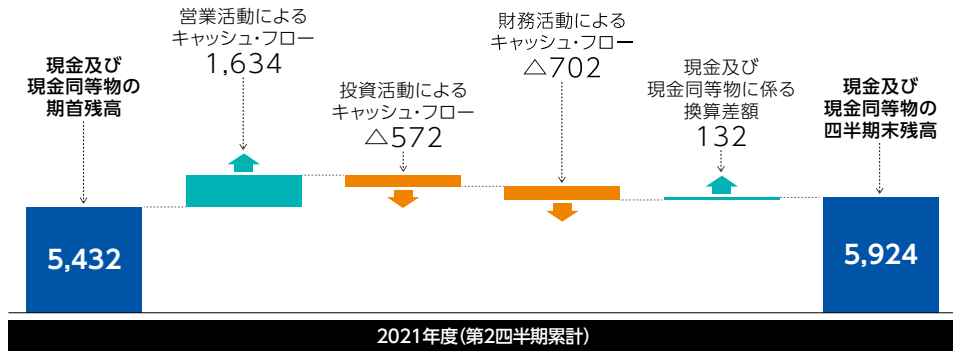
①純資産のポイント

当第2四半期末の純資産は、225億50百万円となり、前期末に比べ14億23百万円増加いたしました。これは主に、利益剰余金や為替換算調整勘定が増加したことなどによるものです。この結果、自己資本比率は53.0%となり、前期末に比べ0.3ポイント減少いたしました。

◆ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

(2021年4月1日～2021年9月30日)



①連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

当第2四半期末の現金及び現金同等物の残高は、59億24百万円となり、当期首残高に比べて4億92百万円増加いたしました。これは、投資活動によって5億72百万円、財務活動によって7億2百万円をそれぞれ使用したものの、営業活動によって16億34百万円を得たためであります。

株式の状況 (2021年9月30日現在)

◆ 株式の状況

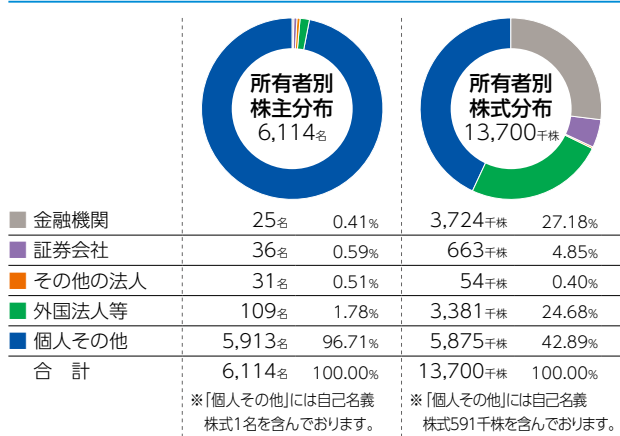
発行可能株式総数	36,000,000株
発行済株式の総数	13,700,000株
株主数	6,114名

◆ 大株主の状況

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,406	10.73%
澄田 誠	475	3.63%
Castlewilder Unlimited Company	456	3.48%
株式会社みずほ銀行	420	3.20%
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	375	2.87%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	361	2.76%
株式会社三井住友銀行	320	2.44%
第一生命保険株式会社	280	2.14%
イノテック社員持株会	270	2.07%
株式会社北陸銀行	265	2.02%

(注) 持株比率は自己株式591千株を控除して計算しております。

◆ 所有者別株主分布・所有者別株式分布



※本報告書の記載金額および数量は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。また、比率は表示単位未満の端数を四捨五入して表示しております。

会社概要 (2021年9月30日現在)

◆ 会社概要

商号	イノテック株式会社 INNOTECH CORPORATION	
設立	1987年1月5日	
資本金	105億17百万円	
従業員数	連結 個別	1,593人 210人
所在地	本社/物流センター 横浜市港北区新横浜三丁目17番6号	
主なグループ企業	三栄ハイテックス株式会社 ガイオ・テクノロジー株式会社 アイティアクセス株式会社 株式会社レグラス 株式会社モーデック STAr Technologies, Inc. INNOTECH FRONTIER, Inc.	
主な取引銀行	株式会社みずほ銀行 株式会社北陸銀行 株式会社横浜銀行	株式会社三井住友銀行 三井住友信託銀行株式会社 株式会社三菱UFJ銀行

◆ 役員

(2021年9月30日現在)

取締役会長	小野 敏彦	取締役	中江 公人
代表取締役社長	大塚 信行	取締役	廣瀬 史乃
代表取締役専務	棚橋 祥紀	常勤監査役	加藤 功
常務取締役	鍋木 祥介	常勤監査役	中越 健介
常務取締役	高橋 尚	監査役	田中 伸男
取締役	劉 俊良	監査役	栗崎 由子
取締役	安生 一郎		

※1 安生一郎、中江公人および廣瀬史乃は、社外取締役であります。

※2 加藤功、田中伸男および栗崎由子は、社外監査役であります。

※3 安生一郎、中江公人、廣瀬史乃、加藤功、田中伸男および栗崎由子は、独立役員として東京証券取引所に届け出ております。

◆株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日
	期末配当 毎年3月31日
	中間配当 毎年9月30日
	そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して 定めた日
単元株式数	100株
【株式に関する住所変更などのお届出およびご照会について】	
証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。 証券会社の口座のご利用がない株主様は、下記の電話照会先までご連絡ください。	
株主名簿管理人 および特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
	〒168-0063
郵便物送付先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	☎ 0120-782-031
インターネット ホームページURL	https://www.smtb.jp/personal/ procedure/agency/
【特別口座について】	
株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更などのお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。	
公告方法	当社のホームページに掲載する。ただし当社ホームページ にて公告を行うことができない事故その他やむを得ない 事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して公告する。 https://www.innotech.co.jp/
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部

新市場区分として「プライム市場」を 選択することを決議しました。

2022年4月に東京証券取引所が市場区分を「プライム」「スタンダード」「グロース」の3市場に再編することに伴い、当社は2021年9月16日付けで「プライム市場」を選択することを決議し、東京証券取引所に対して市場選択申請を行いました。

最新情報の開示は当社IRサイトでお知らせいたします。
<https://www.innotech.co.jp/ir/>

IR情報

個人投資家の皆様へ



経営方針

業績・財務情報



- △ トップメッセージ
- △ 中期経営計画
- △ 環境・インパクト
- △ 業績状況
- △ ミニマム・シナリオ・説明
- △ 業績予想
- △ 連結財務諸表



本社：〒222-8580 横浜市港北区新横浜三丁目17番6号
Tel: 045-474-9000 (代) Fax: 045-474-9089
<https://www.innotech.co.jp/>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています

